

はるによみたいえほん



『はるさんと1000本のさくら』

ただ のぶ作

中央公論新社 2023年

はるさんは、村で一番若いおばあさん。山の谷の小さな村にはもう、10人のおばあさんしか住んでいません。おばあさんたちは話し合い、1000本の桜を植えることにして…。過疎の村が時を経て生まれ変わるまでを優しく描く。



『たんぽぽはたんぽぽ』

おくはら ゆめ作 大日本図書 2015年

すずめが「たんぽぽはたんぽぽ」と言うと、たんぽぽが、花びらをぴんと伸ばしました。たんぽぽが「ありんこはありんこ」と言うと、ありんこが小石をどーんと運びました。たろうくんも、ねこに「たろうはたろう」と言われ…。



『ふゆのあとにははるがきます』

石井 睦美文/あべ 弘士絵

アリス館 2023年

「ゆきむし」が飛び、もうすぐ寒い冬がやってきます。そして雪が…。雪が降り出し、真っ白になっていく様子、冬の間の森の動物たちの様子、やがて春になっていく様子など、ゆったりと時の流れる北国の世界を描いた絵本。



『はわはわ さくら』

ひがし なおこ作/きうち たつろう絵

くもん出版 2010年

春が近づくと、誰もが待ち遠しくなる“桜”。その桜の花びらが、子どもの手のひらに舞い落ちてきました。風に吹かれた花びらを子どもが追いかけていきます。桜の美しさをリズムカルかつ豊かな言葉でつづる本絵本



『チューリップさいた』

くすのき しげのり作/よしむら めぐ絵

Gakken 2024年

春のお絵描きで、しんごくんが描いたのは黒い土。みんなは「なに、これ?」「へんだよ」と言います。けれど、しんごくんは「ぼく、チューリップをかいだ」と言って…。子どものちいさな思いに寄り添い、成長を応援する物語。



『ワレワレはアマガエル』

松橋 利光文・写真 アリス館 2024年

アマガエルの暮らしを知っている? ギャツギャツという大きな声のひみつや、産卵からおたまじゃくしになり、冬眠するまでを、アマガエルが楽しく自己紹介する写真絵本。写真について詳しく解説した「かえるメモ」も掲載。



『シロツメクサはともだち』

鈴木 純著 ブロンズ新社 2024年

わたしたちのこと、ほんとうに、よく知ってる? 道ばたで咲いているのをよく見かける白い花、シロツメクサ。植物観察家・鈴木純が、その美しさと思議を紹介する写真絵本。



『はるとスマレ』

e t o作 偕成社 2022年

今夜は月が紫色にかがやく特別な夜。植物が大好きなはるちゃんが鉢植えのスマレの花を見ていると、むくむくと動きだして…。ねっこでおしゃべりする植物たちを描き、自然の不思議な営みを子どもたちに優しく伝える。